

令和3年度旭区運営方針(概要版) (抜粋)



旭区マスコットキャラクター
「しょうぶちゃん」

「令和3年度旭区運営方針」の全体については、旭区役所ホームページをご覧ください。
(<https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/0000533715.html>)

経営課題1 子育て・教育環境の一層の充実

【1-1】子育て支援の充実

【1-1-2】大阪市版ネウボラの展開 【予算額4,330千円】

- 大阪市版ネウボラを展開しポピュレーションアプローチとしての妊婦健診、新生児訪問、乳幼児健診等を通じ、乳幼児とその保護者の心身の健康の保持を支援する。
- 発達障がい等の早期の気づきによる早期支援にかかる事業の強化
乳幼児健診、赤ちゃん広場、発達相談等その他、乳幼児が集まる場での相談、電話や来所での常設健康相談等、あらゆる機会に臨床心理士が保健師と連携し、発達障がい関係の相談支援を行う。
- あさひプレパパママレッスン(妊婦の交流会)を休日に開催する。
- 授乳をはじめ、妊娠、分娩の不安や悩み、家族計画等に関する助産師による相談機会として、授乳ケア・育児相談事業を実施する。
- 生後1歳になるまでの育児不安がある家庭に対して、助産師による専門的家庭訪問を実施する。

取組によりめざす指標

- 「常設健康相談」、「乳幼児健診」に来所する保護者にアンケートを実施し、担当保健師及び地区担当制を知っているという割合が50%以上



課題と改善策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、プレパパママレッスン及び赤ちゃん広場は開催できていない。今後、感染状況等をみながら開催に向けて取り組んでいく。

経営課題1 子育て・教育環境の一層の充実

【1-1】子育て支援の充実

【1-1-3】子育て支援・相談機能の充実 【予算額1,106千円】

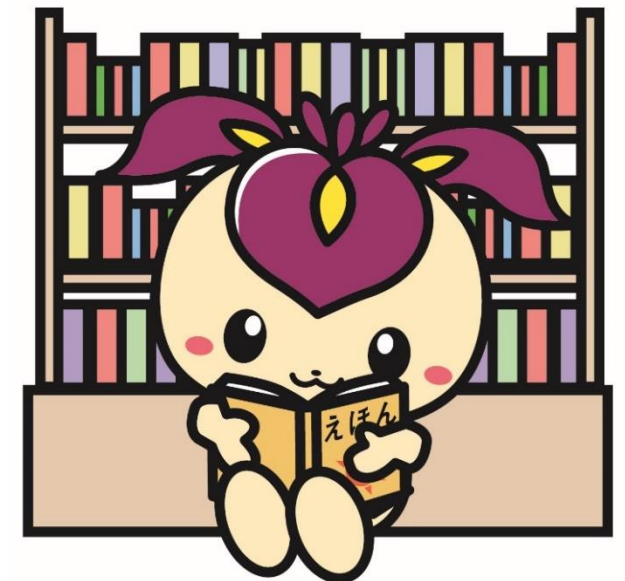
- 子育て中のお母さんの負担軽減やストレス解消などの各種講座を開催する。
- 家庭児童相談員による発達障がいに関する相談支援事業や発達障がいに関して保護者の理解を深めるためのワークショップを実施する。
- 子育て相談メールや子育て相談LINEの開設などにより、いつでも保護者の悩みを受け付ける。

取組によりめざす指標

- 講座やイベントでのアンケートにおける満足度
70%以上

課題と改善策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、7月に予定していた子育てわいわい広場は開催できなかった。また、お母さんのほっとタイム、さくらんぼグループ、プレさくらんぼグループは、一部開催できていないものがあるが、感染状況をみながら開催に向けて引き続き取り組んでいく。



経営課題1 子育て・教育環境の一層の充実

【1-2】子ども自身の生きる力の育成支援

【1-2-5】子どもがたくましく未来を生き抜く力をつける取組【予算額2,952千円】

- 次世代を担う子どもが、人間性や社会性など未来をたくましく生き抜く力を育むために、区内の小・中学校及びこども食堂などを通じて、キャリア教育や命の教育（虐待防止）、防災・減災教育、食育などのプログラムを体系的に実施する。
 - 中・高生自立育み事業（キャリア教育）【具体的取組1-2-4の再掲】
 - ・ 各種職業従事者を招いて講話及び体験講座を実施する。
 - ・ 区内企業等の協力により職場・施設等の見学を開催する。
 - 命の教育プログラム「リアルケアベビ体験学習」事業【具体的取組1-1-1の再掲】
 - ・ 中学生を対象に将来の虐待防止などを目的として、赤ちゃん人形を使った育児体験を含む命の教育を実施する。
 - 防災教育プログラム「旭区防災マスター」育成事業【具体的取組4-1-1の再掲】
 - ・ 大阪市立大学との連携により中学生を対象に防災教育プログラムを実施する。
 - 食育推進事業
 - ・ 「こども食堂」に講師や支援員・ボランティアを派遣し、参加する子どもに対して、食の大切さや食事作法、生活習慣などを学ぶ機会を提供する。
 - ・ こども食堂ネットワーク会議の開催など、各運営主体との連携を強化し、事業の安定的な推進に向けて支援を行う。

取組により
めざす指標

- 各事業の参加者が自分の将来に役立つと思う割合80%以上



課題と改善策

こども食堂は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、10か所中9か所で開催できていないため、実施できていない取組もあるが、今後感染状況をみながら、こども食堂が開催されればその状況に応じて必要な支援を行っていく。

経営課題2

区民一人ひとりの生活に寄り添った福祉・健康施策の推進

【2-2】誰もが暮らしやすいまちづくりの取組

【2-2-1】誰もが活躍できる仕組みづくりの推進

【予算額700千円】

- 障がい者福祉事業所の授産製品の物販や、作品展示等の場を提供し、活動の周知を行う。
- 「障がい者週間」(12月3日～9日)に合わせて開催される座談会や交流会を通じて、また区の広報媒体を活用し、障がい者福祉に関する理解を深める啓発活動を行う。
- 旭区障がい者基幹相談支援センター、旭区地域自立支援協議会の活動の周知を行う。

取組によりめざす指標

- 授産製品の物販等の活動している団体や事業所に、活動の支援についてのアンケートを実施
満足度80%以上

課題と改善策

障がい者福祉事業所の授産製品の物販については、8月2日から緊急事態宣言期間中は開催できていないが、感染状況をみながら引き続き活動を支援していく。



経営課題3 地域コミュニティの活性化とまちの魅力の発信

【3-1】地域コミュニティの活性化促進

【3-1-2】スポーツ・文化等によるコミュニティの育成

【予算額10,162千円】

- 旭区におけるコミュニティづくりを一層推進し、地域の各種団体と協働して、コミュニティ活性化のための各種催しを企画・実施する。
- ・区民まつり、スポーツフェスティバル、各種スポーツ大会
- 区民が中心となった文化芸術を通じたコミュニティを育成するための取組を実施する。
- ・区民の文化芸術活動の発表の場としての「旭区総合文化祭」を開催
- ・文化芸術を通じた区民のコミュニティの拠点として「旭区文化芸術振興連絡会」を運営
- 旭区民センターのプレイルームにおいて、国産木材を活用した本棚や遊具等を配置することで、ぬくもりのある交流スペースとして整備し、コミュニティの育成・活性化につなげる。

取組によりめざす指標

- コミュニティ活性化のための各種催しを知っている区民の割合
《区民アンケート》 90%以上

取組の
一部変更

- 旭区におけるコミュニティづくりを一層推進するため、地域の各種団体と協働し、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮したうえで、コミュニティ活性化のための各種催しを企画・実施する。（区民まつりについては代替案を検討し、スポーツフェスティバルについては内容を変更して開催）

課題と改善策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、区民まつりについては代替案を検討、スポーツフェスティバルについては内容を変更して開催、各種スポーツ大会については開催に向けて引き続き取り組んでいく。

経営課題3 地域コミュニティの活性化とまちの魅力の発信

【3-2】まちの魅力の編集・発信と地域資源を活用したにぎわいづくり

【3-2-1】まちの魅力創出と編集・発信 【予算額3,056千円】

- 旭区の自然や環境、音楽や歴史などの魅力に対する関心を高めるとともに、商店街などの地域資源を区の居住魅力として編集・発信するなど、定住促進を図るために多様な取組を行う。
 - ・旭区ブランドの認定
 - ・区の魚(イタセンパラ)の保全活動及びPR
 - ・小学校での花菖蒲栽培
 - ・音楽を通じたにぎわいイベント 2回
 - ・あさひ、だいすき♪『旭区検定』の実施 1回
 - ・大阪工業大学との連携事業の推進
 - ・空き店舗の勉強会の開催や若手商店主の誘致
 - ・インバウンド誘致(情報発信・体験メニュー)
 - ・旭区ブランド等を活用したイベントの実施

取組の追加

取組によりめざす指標

- 一般紙における旭区の魅力発信
5件以上
- 商店街に魅力を感じる区民の割合《区民アンケート》
75%以上

課題と改善策

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、音楽を通じたにぎわいイベントの取組については開催できていないが、城北公園や商店街などの「旭区ブランド」等を活用し、コロナ禍においても影響を受けにくいイベントの開催に向けて取り組んでいく。



経営課題3 地域コミュニティの活性化とまちの魅力の発信

【3-2】まちの魅力の編集・発信と地域資源を活用したにぎわいづくり

【3-2-2】城北公園の魅力向上【予算額4,000千円】

➤ 地域資源である城北公園一帯を活用し、魅力ある飲食を中心とした集客型イベントを実施するとともに、商店街をはじめとした区のブランド等を発信する区内回遊イベントを実施し、区外在住の多くの人に旭区の魅力に触れてもらい、広く旭区全体の活性化につなげる。

・城北公園フェア2021
来場者見込数 50,000人

取組によりめざす指標

➤ 城北公園フェア2021 区外からの来場者割合
70%以上

課題と改善策

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年6月に開催している城北公園フェアは中止とした。

